

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	
記入者名 (管理者)	
記入日	平成 年 月 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は親子の情愛を表す「仁」です。誰にでも分かりやすく「愛」と表現をし伝えています。	○	共に生き、共に暮らすを基本に本人の意思決定を尊重し、できるだけ本人の希望に添った暮らしをしていただけるよう取り組んでいます。
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の意識統一を図るために職員カンファレンスを設けています。	○	現在、不定期で開いている職員カンファレンスを定期的に行っていくように努力をしています。
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会や運営推進会議を行い理解して頂ける様に取り組んでいます。	○	法人通信「愛めーる」を発行し、施設での暮らしを地域の人に紹介しています。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者と施設周辺を散歩しながら、近所の人や学生、犬の散歩、子供の散歩、畑仕事をされている人などと挨拶をしたり言葉を交わしたりしています。	○	地域の人に施設内の喫茶、談話室で休憩を兼ねて交流をもって頂ける様に取り組んでいます。
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のおまつりなどに参加しています。また、コーラスやセラピー犬のボランティアの訪問があります。	○	地域の交響楽団や和太鼓の演奏会を開催しています。セラピー犬の訪問は開設当初から継続して行なっています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	花を育てたり、野菜を作ったりしています。	○	地域の人と一緒に活動出来る様に馴染みの関係を築いていきます。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年、自己評価を行なうごとに改善しています。	○	年に一回、外部評価の時期に合わせて職員カンファレンスを行なっています。自己評価を定期的に行なっていけるよう努力していきます。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に2.3回運営推進会議を開催しています。	○	運営推進会議の報告を職員に行なう機会を設けていきます。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から地域包括センター設置の委託を受け、サービスの質の向上に取り組んでいます。	○	相互の情報提供を行なっていきます。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今のところ行なっていません。	○	勉強会などで、学ぶ機会を設けていきます。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などで、学ぶ機会を設けています。介護保険法から抜粋し職員に理解を求めています。	○	今後も継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、重要説明書を読んでもらい職員から詳しい説明を行い、質問にもお答えしています。家族の人に現状を聞きながら相談を受け不安の把握に努めています。</p>	<p>○</p> <p>形式的な説明に終わることなく理解、納得されるまで十分説明をしていきます。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口を設けています。市町村役場の介護保険課を紹介しています。</p>	<p>○</p> <p>法人全体として第三者相談窓口の設置を検討していきます。介護相談員の訪問を行なっています。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>訪問時、近況を報告しています。また、訪問が遠のいてる方へは電話にて報告をしています。</p>	<p>○</p> <p>絵葉書、写真展示などを検討しています。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口を設けています。市町村役場の介護保険課を紹介しています。</p>	<p>○</p> <p>法人全体として第三者相談窓口の設置を検討していきます。介護相談員の訪問を行なっています。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員カンファレンスを行ない意識の統一を図っています。</p>	<p>○</p> <p>職員カンファレンスを定期的に行なっていきます。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>正規職員6名パート職員4名で昼間、夜間を勤務しています。緊急時には併設の施設職員(看護師含む)の支援を受けることができます。日中の活動の多い時間は職員が厚く、夜間は薄くなる傾向にあります。</p>	<p>○</p> <p>入居者の生活リズムに合わせ、活動の多い時間帯を話し合い、調整をおこなっていきます。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>施設職員は常に家族、職員、入居者等に関わらず挨拶、声掛けを行なっています。</p>	<p>○</p> <p>いつでも笑顔で明るく声掛けを行なっていきます。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>看護師による勉強会や介護技術の勉強会が定期的に行なわれています。また、グループホーム連絡協議会の研修に参加しています。</p>	<p>○</p> <p>職員に万遍なく研修が受けられるようさまざまな研修内容の紹介を積極的に行なっています。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会の研修にて交流を持つように心掛けています。資料をファイルしてあります。</p>	<p>○</p> <p>交流会の報告を参加できなかった職員に伝えていきます。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員どうし助け合い声掛けをして入居者とお茶・おやつ時間をゆっくり過ごすようにしています。単独で休憩を取ることが難しい。</p>	<p>○</p> <p>職員に無理の無い勤務ができるように配慮しています。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>事前に勤務・休み希望をきき、出来るだけ個々の希望に配慮した勤務表を作成しています。突然の体調不良にも職員間で連絡を取り合い助け合っています。</p>	<p>○</p> <p>研修にはなるべくいろいろな人が参加できるように配慮しています。</p>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族が主体であり、なかなか入居者本人から話を聞く機会はありません。</p>	<p>○</p> <p>施設見学・入居申し込み・契約時など、施設に訪問される機会には本人の同行を求めて、直接話しを聞く機会を設けていきます。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>今までの生活スタイルを伺い継続して行きたいことは継続に努め、改善して行きたいことは相談しながら行なっています。</p>	<p>○</p> <p>家族との信頼関係を築きつつ家族の訴えを傾聴していきます。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけ家族の要望に沿えるように努めています。	○	いろいろなサービスの利用を紹介出来る様に情報収集を行なっていきます。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時は場所に慣れてもらうためにのんびりと職員が寄り添い日々を過ごしてもらいます。徐々に本人の過ごしやすい環境を整えています。	○	今後も継続していく。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の話しに耳を傾け、共感しあえる関係を作っています。	○	今後も継続していく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の立場を理解し、不安解消、介護負担軽減に努め、気がね無く相談を受けられるよう信頼関係を作っています。	○	こまめに入居者の状況報告を行ない、家族との関わりを密にしていきます。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と本人の関係を理解し、適切な対応ができるよう心がけています。	○	伝えるべきこと、伝えるべきひとの適切な判断を行い、家族間、入居者本人との関係を維持していきます。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に、訪問してもらえるよう声掛け、雰囲気作りを行なっています。	○	職員の笑顔、明るい応対ができるよう心掛けていきます。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全員で出かけられる外食・外出の時間を大切にしています。	○	いつも同じ人での食事や外出にならないよう、いろんな人と違う雰囲気での食事や外出を楽しめるように支援していきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入居者が併設の特養に転居されてからも、以前の暮らし、家族の思いなど情報提供をしています。家族に会う機会があれば近況をお聞きし相談を受けることもあります。	○	今後も継続していく。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	危険行為には配慮が必要ですが、できるだけ本人の思いを尊重しています。	○	本人の思いを尊重しつつ、危険行為、支援拒否などについては粘り強く理解を求めています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族訪問時、日常会話等を通じ、以前の生活を把握し、近況報告を行なっています。	○	家族から積極的に職員に声掛け、相談ができるよう、信頼関係を築いていきます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日〇の最後に一人ひとり、その日の自己評価を行なっています。	○	小さなことでもいいから、日々の暮らしに、一人ひとりの満足、充実感が得られるよう支援していきます。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族訪問時、電話等で情報をもったり、近況報告、相談をしています。カンファレンスを開き、問題提起し、援助方法の検討を行なっています。	○	定期的カンファレンスを開き、随時、すばやい対応ができるよう話し合いをしていきます。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時、家族に連絡、相談を行い、家族の了解、本人の納得のもと計画作成を行なっています。	○	今後も継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1ヶ月に1回、モニタリングを行なっています。1日の様子を観察し、一人ひとりの職員が気づきを行なっています。当日、入力が困難な時があり、評価にずれがでてくる場合があります。	○	今後も継続していく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の希望する美容師の人に出張依頼をしたり、マッサージ師の人に来て施術してもらっています。	○	家族にも散髪、外食、外出の支援を依頼していきます。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	併設の特養には合唱団、交響楽団、地元出身の演歌歌手、セラピー犬のボランティアの人の訪問があり、参加をしています。	○	独自のボランティア、折り紙、昔なつかしの遊び(手遊び、お手玉)など検討していきます。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	研修など他のケアマネが集まる場所に参加した場合、相談をすることはあります。	○	今後も継続していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今まで例が無かったので行っていません。	○	地域包括支援センターと情報交換をして勉強をしています。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の選択・了解のもと希望する医院の往診を受けています。	○	今後も継続していく。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診の医師、看護師と協力を行なっています。	○	今後も継続していく。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	人員配置は特別ありませんが、併設の看護師がみまわりにきています。そのとき、様子観察、相談等を行なっています。	○	今後も継続していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の病院の職員と連絡を取り合い、状況を把握し、相談、支援を行なっています。	○	今後も継続していく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今まで例が無かったので行っていません。介護度が変更になった場合、併設の特養に入居されています。	○	現在検討中です。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	併設の特養の看取り、ターミナルを参考に現在検討中です。	○	今後も継続していく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	併設の特養に入居されています。情報交換を十分行ったり家族にも詳しく説明を行い、本人・家族に不安がないよう転居しています。	○	今後も継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの職員の言葉使い、行動に気をつけ支援を行っています。	○ 今後も継続していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	入居者の話を傾聴し、本人の意思決定の支援を行っています。	○ 話をするのが苦手な入居者に対しては寄り添う時間を多くとり、安心して話しやすい環境を作る努力をしています。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり自分のペースで過ごされています。	○ 職員の声掛けも強制ではなく、いかがですかと本人の意思を尊重した声掛けをしています。
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分で選ばれて着てみえる人がほとんどですが、同じ物ばかり着られる人に関しては声掛けを行い、本人の希望を聞き服を選んでいきます。理美容は家族に協力をお願いしています。	○ 家族の協力が得られない人に関しては、職員が関わり本人の気に入った店を選んで利用しています。できるだけ家族との関わりを本人も職員ももてるよう協力をお願いしています。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何か役にたきたいという本人の気持ちや昔の記憶を引き出し、無理のないよう役割分担をお願いしています。	○ 役割りが定着しそれが楽しみになるよう支援していきます。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒は、医師と相談しながら容量を守るように援助しています。本人の希望する物を一緒に買い物へ行き購入しています。	○ 今後も継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを観察し、担当者が中心になって援助方法を相談し決めています。	○	今後も継続していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望する時間を目安に声掛けを行い、納得、了解のもと入浴しています。突然、入浴される人もいたため時間を調整することはあります。	○	今後も継続していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	不快にならないように一人ひとりに合った室温の調整を行っています。夜間見回り時にも調整を行い安眠されています。	○	今後も継続していく。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分の事を自分で行なって頂ける様に働きかけています。役割を持って頂いた事で生活に張りがでていきいきして生活を送って頂ける様に援助しています。	○	今後も継続していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時、おこづかいをお渡しし支払いを見守るなど支援しています。	○	今後も継続していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食など全員で月2回外出する機会をもうけています。買い物・喫茶・散歩には、少人数で行きたい方をお連れしています。	○	外出の少ない方には、興味のある事を提案するなど工夫をして行きたいです。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	近郊には頻繁に出かけています。	○	遠方については入居者の訴えがあっても、全部は実現できていません。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがありましたら代行で連絡もします。特養に公衆電話もあり利用されている方もみえます。	○	今後も継続していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	リビングも自由に利用して頂いてます。	○	今後も継続していく。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の運営方針が”愛”家庭な環境の中で食事の仕度・掃除・洗濯など入居者が職員と一緒に共同生活を行い、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことを目的としています。もうひとつの家族を目指して「共に暮らし共に生きる」ことを大切にしています。拘束は一切しません。	○	今後も継続していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、朝7時から夕方9時まで開錠しています。居室の施錠は職員は全く行ないません。個人的に施錠される方が3.4名みえます。	○	今後も継続していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	外出願望があり窓から自由外出される方、一人で居室で過ごされ不穏になられる方に関して見回りを多くする様になっています。	○	今後も継続していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	部屋で包丁を使用される人はいます。職員が使用する包丁ではなく小型で先が丸く安全に配慮された物を使用しています。	○	本人の活動を見守りつつ、危険行為にならないよう気を付けていきます。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりに合った事故防止を行なっています。ADLの変化のあった方は敏速にカンファレンスを行い対応をしています。	○	今後も継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師による勉強会が月2回行なわれていない。	○	今後も継続していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震時の避難訓練を行なっています。	○	今後も継続していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	下肢筋力低下の為に転倒、ふらつきなど日常的に起こり得る事故等について本人、家族に納得、理解を得ています。	○	常に職員の見守りは続けていきます。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送り、連絡帳、ケース記録により情報のもれがないように努めています。	○	今後も継続していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬を表にして分かりやすくしています。	○	今後も継続していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	看護師の勉強会が月2回行なわれています。食物繊維や水分を摂れる様に食材(根菜類・ひじき・ヨーグルトなど)を取り入れています。	○	今後も継続していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自己にて行なわれている方は見守りで出来る方は任せて行なってもらっています。	○	今後も継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の野菜を彩りよく調理しています。体調により食事が進まない方には、おかゆ・おにぎり・うどんにするなど工夫しています。水分は、10時・15時におやつ時間をもうけています。	○	今後も継続していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	併設の特養の看護師、施設医を交え、感染症対策委員会を月1回開いて【情報交換をし対応、予防について学んでいます。	○	今後も継続していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まとめ買いをしないで新鮮な旬な野菜を1.2日で使用しています。	○	今後も継続していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は、朝7時から夕方9時まで開錠している為、家族の肩が仕事帰りに寄られる事も良くあります。	○	今後も継続していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の花や植物・絵などを飾っています。また、居室・浴室にはのれんをかけています。	○	今後も継続していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	縁台や椅子を置き思い思いに利用して頂いています。	○	今後も継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具・仏壇・絵・写真など使い慣れた物をしつらえて頂いています。	○	今後も継続していく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングを始め居室の空調も見回り時に調節を行なっています。	○	今後も継続していく。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホームを始め併設されている特別養護老人ホームもバリアフリーで手すりがあるので、安心して過ごして頂けます。	○	今後も継続していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの得意な分野を見つけ声掛け・タイミングをコミュニケーションをとりながら活動に繋げています。	○	今後も継続していく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑の利用で野菜を育てています。また、プランターにて季節ごとにお花の植え替えを行なっています。	○	今後も継続していく。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「共に暮らし共に生きる」ことを大切にしています。